

《調査報告》

自然から見た沖ノ島と英彦山の共通性

岡 崇

1. はじめに

福岡県が発行しているレッドデータブックには、県内のさまざまな絶滅危惧種に関する動植物のデータが収録されている。そのなかに一つ興味深い植物としてコケミズがあげられる。コケミズはイラクサ科ミズ属の植物で、福岡県絶滅危惧IA類にランクする県内でも極めて貴重な植物の一つであり、県内での分布は沖ノ島と英彦山に限定されている。



図1 沖ノ島と英彦山の位置図

(1) 沖ノ島

福岡県の北西端に位置する沖ノ島は、玄界灘のただなかに浮かぶ島で、古代より航海安全、国家安寧を願う祭祀が行われ、今もなお神宿る島として神職によって毎日神事が執り行われ信仰によって守られている。大正15(1926)年に、タブノキを主体とする原生林が「沖の島原始林」として国の天然記念物に指定されている。また昭和46(1971)年には「宗像神社境内」として国の史跡に指定され、平成29(2017)年7月には世界文化遺産として登録された。



写真1 沖ノ島のタブノキ(平成24年撮影)

(2) 英彦山

英彦山は福岡県の南東側で大分県との県境に位置し、古代より山伏による修験の場として栄えた。現在もその痕跡を留め、山岳信仰の場、霊峰英彦山として登山客が絶えない。また、戦後の林業増産の影響でスギやヒノキの植林が進み、全体として天然林は少ないものの、今もアカマツやモミ、ブナなどが生育し、樹齢1300年ともいわれる鬼杉は国の天然記念物に指定されている。さらに近年、英彦山とその周辺が国



写真2 英彦山の鬼杉

の史跡に指定された。植林は江戸時代にも行われていたようで、文化10(1813)年にスギを2万5千本植えたことが岩に刻まれている。今はヒノキの植林となっていることから、この石碑のある周辺は代々植林の土地として利用されていたようである。

このように沖ノ島は海上信仰の場であり、英彦山は山岳信仰の場として両者ともに信仰と深いかわりを持つ日本人の信仰の原点にも通じる巨岩と植物が織りなす情景を保っている。



写真3 自然石に刻まれた植林したことを示す文字

2. オオミズナギドリとシカ

(1) 沖ノ島のオオミズナギドリ

沖ノ島には、毎年3月から11月にかけて10万羽を超えるオオミズナギドリが生息繁殖しているといわれている。昼間、魚などの餌を求め周辺の海原に出ているオオミズナギドリは、日暮れとともに辺りが暗くなったころ一斉に沖ノ島へ戻ってくる。この鳥、地面から直接飛び立つことができず、飛び立ち木と呼ばれる大木が斜めになった幹に沿って上り、ある程度の高さから飛び降りるように飛んでいく。沖ノ島の地面にはいたるところに直径20cm程度の穴があり、オオミズナギドリの巣として穿たれている。深さはまちまちで深いものでは1mを超すが、真下に掘ることはなくだいたい地面と平行に掘られている。そのため隣の巣穴と貫通することもあるようだが、沖ノ島ではやや傾斜した地面のやわらかい土を好んで巣穴が掘られている。



写真4 オオミズナギドリと飛び立ち木
(平成24年撮影)

夜明け前の暗いうちに沖ノ島を飛び立っていくため、地面は10万羽が一斉に走り回り、急傾斜のところでは体ごと滑り落ちるようにして前に進むことから、鳥が通った後が箒で掃いたようになっている。これが毎日行われているために、樹木の下に生えているはずの低層木や野草が生えないのである。ある昆虫の専門家によると、一般的に蛾の幼虫は下層木や野草を餌にして育つのだが、沖ノ島では蛾の種類が通常の森に比べると少ないという。まれに巨木が倒れ、日が差すとオオミズナギドリの巣穴が掘られるより先に下草が生えるところもある。

(2) 英彦山のシカ

一方、英彦山では、貴重な植物を喰い荒らすシカ（ニホンジカ）の増加が問題となっている。今回、英彦山神宮奉幣殿から鬼杉一帯を中心に歩いてみたが、スギやヒノキの植林の下には本来生えているはずの下層木や野草がほとんど生えていない。たまたま見かけたウバユリも葉の部分をシカに食べられていた。面白いのは、休憩用の東屋の屋根に本来英彦山に生えている種類の植物が生育していることや、岩場では、シカ



写真5 英彦山のシカ

カが届く範囲の植物とシカが届かないところに生えている植物の境（シカ摂食線という）がはっきりしていることが観察できる点である。また、独特の匂いを発し毒性のある植物は、シカが食べないため生えているところもある。その代表例がマツカゼソウ、フッキソウ、ゴマキと呼ばれる植物である。ゴマキは、葉を触ると独特のゴマの風味が漂う。



写真6 マツカゼソウ



写真7 フッキソウ



写真8 ゴマキ

3. 沖ノ島と英彦山の地質

沖ノ島や英彦山は、ともに新第三紀中新世(約2300万年から530万年前)の火山活動によって形成された凝灰岩を主体とする。

沖ノ島は、対州層群と呼ばれる静かな海の底で堆積した頁岩の上層に、火山の噴火による緑色凝灰岩が厚さ数百mにわたって堆積している。日本海が形成された頃から現在に至るまでに大部分は波の浸食によって削られ、沖ノ島本島のみが急峻な陸域として残された。そうした条件が重なり、新たな技術や文物を求め朝鮮半島や中国大陸へ渡った古代の人々は、この島が九州から朝鮮半島へ向かうための指標となり、また、航海の無事を願って島内にある緑色凝灰岩の巨大な転石に神を宿らせ祭祀を行ったと考えられている。

英彦山は、陸生火山に由来し、安山岩を含む角礫凝灰岩や均質な砂粒の凝灰岩が互層となって形成されている。それが数百万年かけて雨などの浸食によって深い谷や断崖絶壁などが形成された。凝灰岩は火山由来の堆積岩であることから雨水は岩に染み込み、時に崖下から染み出すところもある。日本三壺水と呼ばれる般若岩の壺水もその一つである。ま

た、時には風化しやすい砂粒の部分が洞窟やオーバーハングする地形を作り出し、修験の場に相応しい情景を醸し出している。

4. 共通する絶滅危惧種

コケミズは福岡県内においてなぜ、沖ノ島と英彦山だけに確認されているのか。その謎を解くために、コケミズが生育している2カ所を訪れた。沖ノ島や英彦山のなかでもコケミズは、どこにでも生えているというわけではない。この2地点においても生育している場所はかなり限られていることがわかった。2地点に共通している条件は次のとおりである。1つ目は生育している母岩が凝灰岩であること。2つ目が常に水が適度に染み出していること。3つ目が、程よく日が当たり、風通しが良いことである。2つ目と3つ目は、相反するように思えるが、限られた範囲で水が染み出し、同時に風通しがよく適度に日が当たる場所という条件がコケミズの好む生育場所なのである。最近、住宅の庭先にコケミズと思われる植物が生えているという報告もあり、雑草として刈り取るほど生えているところもあるようだが、ここでは、秘境ともいえる地にごく限られた条件のなかで生育する希少価値の高い植物であることに留意する必要がある。この事を踏まえ、福岡県内にコケミズがほかに生育していないか、これからも探し求めてみたい。

もう一つコケミズと似たような条件下で生育をしている多肉植物を紹介する。それは、沖ノ島のイワレンゲと英彦山のツメレンゲである。両者ともにベンケイソウ科イワレンゲ属の植物で、人の手が届かない急峻な崖の上の、雨が降っても水がたまること



写真9 沖ノ島のコケミズ



写真10 英彦山のコケミズ



写真11 沖ノ島のイワレンゲ（平成24年撮影）



写真12 英彦山のツメレンゲ

ない風通しの良い場所を好んで生育している。近年、多肉植物がブームとなり心無い人たちの乱獲や生育環境の変化によって天然の多肉植物が絶滅の危機にあるが、少なくともここでは自然のままに手つかずで残しておきたいものである。

5. まとめ

このように福岡県の北西端と南東端に位置する沖ノ島と英彦山の自然環境は、コケミズの生育以外にも共通する要素が多いと感じることができた。「鎮西彦山縁起」には、宗像三女神が英彦山に鎮まったという一文もある。神が降臨すると感じるような場所は、本来、人の手の届かない巨岩があり、そこに今にも絶滅寸前の植物が生育し続けられるようなところ、つまりそれが沖ノ島であり英彦山だったのではなかろうか。

参考文献

福岡県環境部自然環境課(2011)『福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011－植物群落・植物・哺乳類・鳥類－』福岡県

野木雄大(2018)「中世における宗像神信仰の展開」『沖ノ島研究』第4号、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議、pp. 41-52

新修宗像市史編集委員会(2019)『新修宗像市史 うみ・やま・かわー地理・自然ー』宗像市

付記

この記事を書くにあたって、令和2(2020)年8月1日から2日にかけて、宗像大社の許可を得て沖ノ島へ渡島し、モニタリング調査を実施した。

同年8月5日には福岡県保健環境研究所の須田隆一氏の指導の下、登山道周辺の植物等について説明を受けた。本文ではそのときに教わった内容を収録している。

本文中の写真は、平成24年撮影と表記されているもの以外、今回撮影したものである。

今回の調査で両者のコケミズを観察した結果、生育場所の標高差なのか、沖ノ島はすでに盛りを過ぎ茎も伸び切った状態であったが、英彦山はまだ新芽であった。いずれの箇所もごく限られた範囲に生育しているが、生育面積は英彦山の方が広く、個体数も多いと思われる。遊歩道周辺に限ってはあながち、コケミズの生育ポイントとほぼ同条件の他の岩場を見て回ったが、不思議なことに生育は認められなかった。

(おかたかし 原始・古代部会)